

2007 年度日本語教授法及び実習 研究レポート

ゼロ初級クラスにおける媒介語使用について
～ 学習者ビリーフ(Belief)からの一考察～

日本語教育学講座 M2

初恵珠(グレイス)

2008/1/31

1 はじめに

外国語教育（ここでは、日本語教育）においては、学習者の母語やそのほかの媒介語を使わず、日本語だけで教える「直接法」と、学習者の母語やほかの媒介語を使用し、目標言語を教える「間接法」がある。この二つの教授法に、それぞれ長所と短所があり、どれが効果的なのかについては、賛否両論である。また、どれを授業に取り込むのかも、色々な要因に影響されると思われる。例えば、学習者に共通語があるか、学習者は初級なのか上級なのか、学習者は媒介語を好むかどうか、授業時間、などがある。

今回の実習では、日本語学習経験のないALT(Assistant Language Teacher)が実習における媒介語（英語）の使用についてどう思ったか、それから、彼らの媒介語使用に対するビリーフを、アンケートを通し調査を行った。本研究レポートでは、まず、媒介語と学習者ビリーフに関する先行研究と文献をまとめる。それから、アンケート結果をまとめ、考察し、どのような改善が必要なのかを検討したい。

2 媒介語と学習者ビリーフに関する文献と先行研究

2.1 直接法と間接法

ここでは、まず直接法と間接法の長所と短所をまとめたい。

2.1.1 直接法

長所：

様々な国の学習者が集まり、共通語がない場合に使える。

学習期間が長く、それに一日の学習時間が長いコースなどでは、日本語だけで教えることが効果的である。

学習者は想像力を働かせながら理解し、能動的な学習ができる。

自分の力で理解したという学習成果の実感や喜びが大きく、理解した事柄の記憶定着も行われやすい。

短所：

日本語で教える場合、学習者が理解できないところがあっても質問できない。そのため、学習者が感じるフラストレーションは学習効率を著しく落とすことがある。

理解に時間がかかり、授業時間が多く必要になる。

絵・実物・写真・地図など、たくさんの補助教具が必要となる。
学習者数が多くなると実施しにくい。

2・1・2 間接法

長所：

短期間に効率よく教えることができる。
教師が初心者や、問題が複雑な場合には、媒介語が必要となる。
正確な説明が可能、かつ簡単である。
準備が簡単で、道具も少なくて済む。

短所：

日本語と媒介語との間に意味のずれがある。
学習者の日本語に接する時間が少なくなってしまう。
学習者は、教師の説明を受け、理解するという受動的な理解を常にすることになる。
絵や動作を使用せずに媒介語で説明する授業は変化に乏しく、単調になりやすく、学習者は緊張感を維持しにくくなってしまう。
いつでも媒介語で説明ができると考えていると、教師が授業に対する準備が不十分になる傾向がある。

「実際に、純粋な直接法は少ないのではないかと思われる。」「純粋な直接法に固執する必要はない。」(岡崎他 1992:34)と言われるように、直接法と間接法のそれぞれの長所と短所を考え、できるだけそれぞれの長所を生かした折衷法が効果的である。

2・2 学習者ビリーフ

2.2.1 学習者ビリーフとは？

教師が自分のビリーフ(確信・信条)を持っているように、学習者が学習する際にも、それぞれビリーフを持っている。言語学習ビリーフとは、言語(ここでは日本語)はどのように学習すべきか、言語学習はどのようなものであるかといった、言語学習に関する意見、考え方、信念のことである。Horwitz(1987)は、教授法や教室活動が学習者のビリーフと一致せず、授業が学習者の期待に答えていない場合は、学習到達度が限られる可能性がある」と指摘している。また、ビリーフが学習者の習得や学習ストラテジーに影響を及ぼすとし、教師が学習者のビリーフを把握することが重要であるとされる。

2.2.2 学習者ビリーフに関する先行研究

坂井(2000)は、中国人学習者に適した教授法及び教室活動を特定することを目的とし、香港にある4つの大学の大学生316名、日本人教師10名、中国人教師6名に対し、中国語版 BALLI を実施した。質問項目は、言語学習の性質、コミュニケーションストラテジー、教師への要求、媒介語の4領域にわたる。媒介語については、被験者が「初級レベルの文法は母語で説明してほしい」とし、「授業内容が理解できない場合は母語で同級生に聞いても構わない」と考えている。また、「媒介語で文法解説する必要度」がかなり高かった。

和田(2007)は、同じく BALLI 調査票を用い、スリランカの日本語学習者を対象に、調査を行った。質問項目は、外国語学習の適性、言語学習の本質、言語学習の困難さ、学習とコミュニケーションストラテジー、言語学習の動機、教師の役割、教授法・教室活動、媒介語、言語学習と文化の関係についての9領域にわたる。媒介語に関する調査の結果、学習者は、教師によるシンハラ語の文法説明は上級になるとあまり必要ないと考えているようである。ただし、「シンハラ語で文法を説明する必要はない」では、賛成派・どちらでもない・反対派がほぼ均等に分かれており、学習者のビリーフの統一した傾向が見られなかった。

3 研究課題

本研究レポートでは、以下の3つの課題を検討することを目的とする。

学習者(ALT)は今回の実習での媒介語の使用に対し、どのように思っているのか。

学習者は英語の授業を行う時、どのように媒介語を使っているか。また、彼らが持っている言語学習のビリーフが、今回の実習に対する理解度や評価に影響するのか。

4 学習者背景

月クラスの学習者は3名で、全員男性であった。学習者の国籍、日本語学習歴、滞日期間、ニーズとレディネスを下の表にまとめた。

表1：学習者背景

学習者	A	B	C
国籍	イギリス	アメリカ	カナダ
学習歴	ゼロ	ゼロ	回答なし

滞日期間	3年間	3年間	5年間
ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生たちと簡単な会話をしたい。 ・日常生活での簡単な会話をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や、学校で、そして友達とも日本語を使いたい。 ・看板や道の標識を読みたい。 ・日本語テレビ番組を理解できるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答なし
レディネス	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名を覚え、カタカナを勉強し始めた。漢字はほんの少ししか読めない。 ・日本語の授業を取ったことがあるが、主に数字の数え方であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名、カタカナ、漢字の読み書き全部できない。 ・数字や時間、値段を聞いて少し理解できる。 ・簡単な自己紹介ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答なし

表1からわかるように、3人の学習者とも滞日歴が長いですが、ほとんど日本語が話せない。それゆえ、彼らも学校で英語のみで教えていると想定できるであろう。また、ニーズのところからみても、ほとんどが自分の英語の授業で日本語を使いたいわけではなかった。

しかし、日本語が話せたなら、日本語という媒介語で教えるのであろうか。媒介語で教えることに対し、どのような確信を持っているのであろうか。今回の調査から、以上のような疑問について考察したい。

5 授業の実施

今回の実習では、折衷的な方法を使い、教室用語（「書いてください」「終わりました、など）を日本語で指示したが、文法説明や活動などでは、英語を主に使用した。また、日本語と英語で授業をする場合の差を見るため、1、2日目はなるべく日本語中心で、3、4日目は英語中心で教えた。

使用した教科書「月クラス」と配布した資料にも、英語訳と説明を載せた。学習者にも日本語の使用を強要しなかった。

6 アンケート調査の結果と考察

6.1 アンケート調査の実施

アンケート調査は、五日間の実習の最終日に行った。また、事前に学習者に調査目的

を伝えると、結果を左右するので、調査目的もこの日に伝えた。質問は、この日本語コースでの英語(媒介語)の使用に対する意見(5項目)と自分の英語の授業での日本語(媒介語)の使用に対する質問(3項目)からなる。(資料1参照)

6.2 アンケート調査の結果と考察

記号について:

「」: 学習者が選んだ選択肢

英語の表記: 学習者のコメント

(): 学習者のコメントの和訳

6.2.1 この日本語コースでの英語の使用についての結果と考察

質問1)	この日本語コースでは、英語が必要ですか？
学習者 A	「 とても必要」 Because you can only teach me so much in one session, but I need to comprehend. I thought balance of E/J was very good, all through the course. (一つの授業でたくさん教えることができるが、理解する必要もある。全体的にはとても英語と日本語のバランスがよかった。)
学習者 B	「 必要ではない」 Just a little explaining grammar points or vocab. (英語は文法や語彙の説明だけでよい。)
学習者 C	「 必要ではない」 Yes, because 1) it is a beginning level; 2) the students are native English speakers. (必要である。それは、これが初級レベルであり、学習者も英語母語話者であるから。)

必要さの選択とコメントが不一致であったが、コメントからみる限り、学習者は全体的に、この日本語コースでは、英語がある程度必要だと思っていることがわかった。また、英語が必要とする理由も学習者それぞれであったが、「初級レベルで」「英語母語話者を対象に」「短期間で」「文法や語彙の説明」に、媒介語を必要とすることがわかった。今回の

日本語実習のような、学習者の母語も統一されていて、時間が限られているコースでは、媒介語の使用は効率的なようであった。

質問 2)	この日本語コースでは、英語を必要以上使われたか？
学習者 A	「いいえ」
学習者 B	「いいえ」
学習者 C	「いいえ」

3 人とも「いいえ」を選択した。これは、最初の 2 日間は日本語が中心であったことと、英語を通して授業の内容を理解した部分もあったからではないであろうか。また、教師との友情関係も築いてきたため、マイナスな評価をしなかったとも考えられる。

質問 3)	どの部分に、もう少し英語を期待していたか？
学習者 A	「ダイアログの紹介」・「文法説明」・「活動の説明」・「授業の前や後での雑談」
学習者 B	「文法説明」・「活動の説明」・「授業の前や後での雑談」 Reason(s): Case by case. (理由：状況に応じる。)
学習者 C	「文法説明」・「活動の説明」・「授業の前や後での雑談」・「その他：to answer students questions (質問に答える時)」 Reason(s): It is very helpful to clear confusion. (理由：分からない箇所をはっきりさせることができる。)

3 人の学習者とも、「文法説明」と「活動の説明」のような説明の部分に英語を使ってほしかったようである。「2 . 1 直接法と間接法」のところでも書いたように、「媒介語を使うことで、正確かつ簡単に説明することができる」ことと一致した。

一方、「授業の前や後での雑談」においても、学習者が英語を使ってほしいとの結果であった。これは、教師の予想とは反対であった。「友達と日本語で話したい」という学習者ニーズがあったので、日本語で雑談したほうがいいのではないかと教師は思った。しかし、学習者は、まだ初級レベルであるため、日本語で雑談できる程度ではなかった。それゆえ、英語で話したかったのではないかと考えられる。

質問 4)	どの部分に、もう少し日本語を期待していたか？
学習者 A	「教室の指示」 Reason(s): We could have been drilled more. Had to repeat more. (理由: もっと練習ができたはず。教師が教室の指示を繰り返す必要がある。)
学習者 B	「教室の指示」・「ダイアログの紹介」 Reason(s): Case by case. (理由: 状況に応じる。)
学習者 C	「教室の指示」・「ダイアログの紹介」・「その他: practicing the grammar points/dialogues (文法やダイアログを練習する時)」

3人の学習者とも「教室の指示」にもっと日本語を期待していた。今回の実習では、教室の指示をなるべく日本語で与えるつもりであったが、徹底的されなかった。多くの場合、日本語で指示した後、すぐ英語でもう一度指示を与えた。学習者にとって、「～てください」のような指示は、日本語だけでもすぐできることである。英語で繰り返すことにより、逆に学習者から「できた」という満足感を奪ったのではないかと思った。

質問 5)	教師の英語は、どのような英語であってほしい？
学習者 A	「日本語が時々入るもの」
学習者 B	「純粋な英語」「日本語が時々入るもの」 It depends on how hard the content is! It should be a judgment call. (内容の難易さによるものであるべき。)
学習者 C	「純粋な英語」「日本語が時々入るもの」 Japanese can be mixed when translated. (日本語は時々入っても良いが、英語に訳してほしい。)

3人の学習者とも、教室で使用する英語は、日本語が混ざったものでも構わないという結果であった。所々、学習者の分かるような日本語を入れると、学習者に「分かった」という喜びを与えることができるのではないかと考えられる。

6.2.2 学習者の学校での日本語の使用についての結果と考察

質問 1)	学校の英語の授業で、日本語を使うか？ どのような状況で日本語を使うか？
学習者 A	「時々使う」
学習者 B	<p>「全く使わない」</p> <p>Reason(s): I want students to speak English only. It's nice practice for them. But I want to understand their conversations.</p> <p>(理由: 生徒に英語を話してほしい。彼らにとっては良い練習である。しかし、私は彼らの会話を理解したい。)</p> <p>Situation(s) where you use Japanese: My living area everyday. I am the only foreigner in my city and it's difficult to communicate.</p> <p>(日本語を使う状況: 毎日の生活に。私はこの地域のたった一人の外国人である。コミュニケーションが取りにくい。)</p>
学習者 C	<p>「時々使う」</p> <p>Reason(s): Sometimes to explain instructions I use J words, i.e. himitsu, oboete.</p> <p>(理由: 指示を説明する時には時々日本語を使う。例えば、ひみつ、おぼえて。)</p> <p>Situation(s) where you use Japanese: For classroom management, maintain interest, humor, praise.</p> <p>(日本語を使う状況: 教室の管理、学習者の興味を維持する、ユーモアがほしい時、誉める時。)</p>

「全く日本語を使わない」と答えた学習者は一人であった。ほかの2人は、時々日本語を使い、授業を行うようである。6.2.1の質問1の返答と一致し、「全く日本語を使わない」学習者は、今回の日本語コースでも、英語という媒介語の使用を重要ではないと思った。(文法と語彙の説明のときのみ必要という返事であった。)

しかし、今回の学習者は全員 ALT であり、普段学校では、日本人の教師と組んで授業を行う。そのため、彼らは日本語で教えなくても良いのではないだろうか。

質問 2)	日本語が話せたら、授業でもっと日本語を使うか？
学習者 A	「たぶん」
学習者 B	「はい」 Reason(s): My environment. (理由：私の環境なので。)
学習者 C	「たぶん」 Reason(s): Yes, on occasion but I would use it more accurately with the right word at the right moment. (理由：はい、場合によるけど、正確な日本語を正しい場面に使う。)

「日本語が話せたら、授業でもっと日本語を使うか」に対し、「はい」と答えた学習者 1 人いたが、理由のところからみると、質問の意味を正確に捉えていないようである。そのため、この学習者を除きたい。残りの 2 人とも「たぶん」と答えた。この結果から、学習者は、媒介語を使っても良いという言語学習のビリーフを持っているように捉えられる。また、媒介語で教える際、「正確さ」が重要だと考えられているようである。

質問 3)	言語学習に対し、どのようなビリーフを持っているか？
学習者 A	Do what you have to do to make classes interesting and include everyone. (授業を楽しくさせ、生徒全員を参加させるために、しなければならないことをする。)
学習者 B	My belief is when teaching English I never use Japanese in the classroom at work but I would like to use Japanese just to understand the Japanese to help me in class. But everyday life I think Japanese is important to communicate with the Japanese community. (私のビリーフは、英語の授業では日本語を一切使わないこと。しかし、教室での日本語を理解することはとても重要である。そのための日本語を使いたい。日常生活でのコミュニケーションでは、日本語がとても大事である。)
学習者 C	If a teacher can use the students' native language to explain grammar points and answer questions quickly and accurately, students will be happier and more content can be taught. This is especially applicable for beginner/1 st /early level classes. (教師が、生徒の母語が話せ、それを使い素早くかつ正確に文法を説明したり、

	質問に答えたりができるなら、生徒も喜ぶし、教えることも増える。これは、特に初級レベルに応用できる。))
--	--

学習者はどのような言語学習のビリーフを持っているかを直接聞いた質問である。学習者 A は、質問に対し間違っ理解したようなので、彼を除きたい。学習者 B は終始、他の二人より、媒介語に対し負の態度であった。しかし、実際の授業では、この学習者は一番媒介語に頼っていた。学習者ビリーフと実際の学習行動の間に差が見られた。教師として教える立場と学生として勉強する立場では、媒介語に対する態度が変わることもあったことがわかった。学習者 C は「媒介語を上手く使えば、学習の役に立つ」のようなビリーフを持っている。この学習者は、今回の実習でも英語の発言が多く、授業に対する理解度も高かった。

7 おわりに

今回の実習では、折衷的な方法を用い、授業を行った。また、アンケート調査の結果でも、媒介語の使用に支持が得られた。「直接法と間接法にはそれぞれ長所と短所があり、どちら一方しか用いないというのは逆に効率的ではない。」(奥村 2002) 今回はわずかなデータではあるが、このことを実証されたと言える。但し、媒介語を使用する際、いくつかの点に注意しなければならない。例えば、教室用語のような簡単な日本語を徹底的に使用することや、学習者が分かると思われる日本語をなるべく多く使うことなどである。こうすることで、学習者が「できた」や「わかった」という喜びを覚え、日本語学習にさらに興味を持つようになるのではないかと思われる。

参考文献

- 岡崎敏雄他(1992)『ケーススタディ日本語教育』おうふう
 板井美佐(2000)「中国人学習者の日本語学習に対する BELIEFS について 香港 4 大学のアンケート調査から」『日本語教育』104 号 pp.69-78
 和田伊世(2007)「スリランカの大学生の言語学習ビリーフから日本語教育の改善を考える」『国際交流基金 日本語教育紀要』第 3 号 pp.13-28

参考サイト

- 奥村愛子(2002)『入門レベルにおける媒介語の使用について』名古屋大学 2002 年夏季実習 (http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/nichigen/menu5_folder/jisshu/2002/report_okumura.html)

資料 アンケート調査票

This Questionnaire is about the medium of instruction in a language class.

(1) Use of English in this Japanese course

1) Do you think English is necessary for this Japanese course?

Very necessary —————> Very unnecessary

1 2 3 4

Reason(s)

2) Do you think English was overused in the course?

Yes No

3) Which part do you expect more English to be used?

Classroom instruction

Introduction of dialogue

Grammar Explanation

Explanation of Activities

Talks before/after classes

Others _____

Reason(s)

4) Which part do you expect more Japanese to be used?

Classroom instruction

Introduction of dialogue

Grammar Explanation

Explanation of Activities

Talks before/after classes

Others _____

Reason(s)

5) When the teacher(s) use English, do you expect it to be:

Pure English

Mixed with Japanese

Others _____

Which area(s) do you expect Japanese to be mixed?

(2) Use of Japanese in your school

1) Do you use Japanese in your English classes?

Always Sometimes Never

Reason(s)

Situation(s) where you use Japanese:

2) Do you think you will use more Japanese if you could speak Japanese more fluently?

Yes Probably No

Reason(s)

3) What is your belief in the medium of instruction in a language class?

Thank you!